

税理士のひとりごと

税理士の佐藤です。

ロシアのウクライナ侵攻で世界が混乱するなか、世界で最も安全と思われていたわが国で最悪の暗殺事件が起きました。



安倍晋三元首相の生前の功績に感謝しご冥福をお祈りいたします。

この事件をきっかけにカルト宗教の日本への浸食が明らか

になりましたが、マスコミ、政治家等々、カルトに関わりのすべてが明るみに出て、被害者がこれ以上増えない事を切に願います。

私たちは、100年に一度の災害、事件・事故が頻繁に起こる歴史の目撃者です。企業のトップの皆様が健康でいる事が会社にとっての最重要テーマです。そして、自分が出来る事を精一杯頑張り、会社を発展させてください。

心の栄養補給

「深い孤独がなければ、まともな作品はつくれない」これは、20世紀を代表する画家ピカソが残した言葉です。孤独は自分を見つめ直す大切な時間だという事です。

今、日本で一番ストレスを抱えているのは間違いなく岸田首相です。見た目通り真面目な方で家族との会食は大切にする一方、休日は「余計な警備をさせたくない」と外出を控え、資料を読み込む時間に大半を費やすようです。

岸田首相に限らず歴代の首相も自分な

りの方法で孤独な時間を作っています。中曽根康弘氏は禅寺での座禅、小泉純一郎氏は公邸でクラシックを聞いて過ごしたのは有名な



話です。トップに立つ人には孤独と心の栄養補給が大切なようです・・・。

後継者問題

中小企業も含め、後継者問題は避けて通れない課題です。

日本電産という会社があります。世界NO.1のモーターメーカーで年商2兆円もの大企業。その巨大企業を一代で築き上げたのが永守重信氏 77歳です。後継者としてプロ経営者を何人もスカウトしますがお眼鏡にかなう人物が見つからず未だに最高経営責任者から卒業出来ません。同様なケースは、ユニクロ、ソフトバンクでも見られます。

偉大なトップの後継者は簡単には見つからないという事です。わが国にとって安倍氏を失った損失は、はかり知れません。

採用試験

さて、後継者のみならずいわゆる一般社員の能力に不満をもつ経営者は多いのではないのでしょうか・・・。

先ほどの永守氏の発想と行動はユニークです。永守重信著「人を動かす人になれ（三笠書房）」によると、メインの商品が「モーター」なのでライバルに大差をつける事は難しいのが現実のようです。だから、競争相手より開発力や営業力がほんの少し上回る事が大事と言います。

ある年の採用試験で応募者約 70 名に昼食を食べてもらい、早く食べ終わった順に 33 名を無条件に採用しました。「理由は、飯を早く食べれる人間は何をやらせても早いに違いない。しかも、好き嫌いなく何でも食べられるのは健康な証拠だとの仮説に基づく採用試験でした。実際、その後、彼らは活躍したそうです。



永守氏は成績優秀者よりも「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」という人物、日本電産風に言うと、仕事も人材も、ベストを求めずベターを追求する事が大切との考えなのです。

皆さんも社員がベターな人材に成長する事をじっと待ちましょう。ちなみに、「早飯試験」に味をしめた永守氏は「大声試験」、「便所掃除試験」など世間からひんしゅくを買うような試験を試しましたがいずれも失敗でした。

使えない～

先ほどの本は 25 年ほど前に初版が出版されましたが・・・その本の抜粋です。

「20 代の部下を持つリーダー（25 年前）の悩みは共通している、今の若者は『協調性に乏しく、仕事に対する意欲も感じられない、シラケていて使えるものにならない・・・しかも、すぐキレル』」。

あれ・・・と思いませんか？ 今、若い社員を指導している皆さんも 25 年前にはその様に見られていたようです。つまり、昔も今も若者は同じなのです。



「やってみせ、言っ
て聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ（連合艦隊司令官 山本五十六 1884 年生まれ）」との名言があるように 110 年以上前からリーダーは同じ悩みを抱えています・・・。

今月のことば

ゴミ溜めみたいな工場で収益が上がっている会社があったら教えて欲しい。

（清潔な会社が成長する）

日本電産 永守重信氏

編集後記：

先月も紹介しましたが・・・トップガンが大ヒット中です。リピーターにオジさん（中年）が多いのは、若者とオジさんとの対立、そのオジさんの活躍が描かれている事に尽きる（空撮もすごい）と私は感じています。オジさん（オバさん）が頑張らないと会社は良くなりません。昭和の力を若者に見せつけましょう（寿）。